

福島事故究明棚上げして再稼働ねらう東京電力

柏崎刈羽原発再稼働反対署名3万人超える



【キツリフネ】キツリフネ科の一年草。漢字で「黄釣船」と書きます。葉の下に釣り舟がぶらさがっている、そんな感じで咲いています。どんぴしゃですね。花言葉は「安楽」「私に触らないで」。

原発をなくす新潟県連絡会のメンバーの皆さんとともに29日、東京電力本社を訪問、柏崎刈羽原発の再稼働をやめてほしいという県民の署名、3万2868筆(写真右下)を届けてきました。応対したのは立地地域部原子力センターの吉田所長、田中、阿部副所長、福島原子力補償相談室の大石部長でした。

吉田所長は冒頭の挨拶で、「福島での事故についてはたいへん申し訳なく、深く反省して

いるのか」「全号機が停止したのはこれで3度目だ。停止のたびに地元の暮らしは右往左往している。これをどう見ているのか」「地盤調査は時間がかかるのではないか。その点、どういう見直しを持っているのか」「政府は福島第一原発はコントロールされているとあって、それを撤回しようとしていない。現在、メルトダウンした核燃料はどうなっているのか」「津波によって事故が起きる可能性が

だ」などの声が出て、賑やかな議論になりました。私は先日の福島訪問を踏まえて、一向に収束に向かわない現実、田んぼなどが簡単には元に戻らない深刻な状況などを指摘して、原発事故というのは他の災害と違った異質のものだ、柏崎刈羽原発についてもいつときも早く廃炉の決断をと迫りました。

吉田所長らは答弁の中で、福島第一原発の事故後の状況については、「(原子炉内部など)ロボットなどを使って検査している段階だ。(構内については)燃料の冷却、電源設備の多様化、汚染水対策などで一定の前進がみられる」とのべました。まだ原因究明には程遠いですね。柏崎刈羽原発については、「重要な電源と見ているが、再稼働時期については具体的に何年の何月というものではない。まずは安全対策をしっかりとやっていくことだ」

注目の柏崎刈羽原発については、「6、7号機について申請している。県民の皆さんに安全対策をしっかりと説明していく」とのべ、再稼働推進の姿勢を崩しませんでした。

参加者からは、「原発について本当に安全だ」という認識を持って

どのべ、再稼働時期については触れませんでした。安全対策をしっかりとやるためには福島事故の原因究明が欠かせませんが、そのことを棚上げして再稼働申請しているというのはおかしい話です。全体として、東電側は反省は言葉だけで、再稼働ありきの発言が目立ちました。



はしづめ法一の
活動レポート

No.1668 2014.8.3
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら
橋爪法一 検索

福島事故究明棚上げして再稼働ねらう東京電力

柏崎刈羽原発再稼働反対署名3万人超える



【キツリフネ】キツリフネ科の一年草。漢字で「黄釣船」と書きます。葉の下に釣り舟がぶらさがっている、そんな感じで咲いています。どんぴしゃですね。花言葉は「安楽」「私に触らないで」。

原発をなくす新潟県連絡会のメンバーの皆さんとともに29日、東京電力本社を訪問、柏崎刈羽原発の再稼働をやめてほしいという県民の署名、3万2868筆(写真右下)を届けてきました。応対したのは立地地域部原子力センターの吉田所長、田中、阿部副所長、福島原子力補償相談室の大石部長でした。

吉田所長は冒頭の挨拶で、「福島での事故についてはたいへん申し訳なく、深く反省して

いるのか」「全号機が停止したのはこれで3度目だ。停止のたびに地元の暮らしは右往左往している。これをどう見ているのか」「地盤調査は時間がかかるのではないか。その点、どういう見直しを持っているのか」「政府は福島第一原発はコントロールされていると言っていて、それを撤回しようとしていない。現在、メルトダウンした核燃料はどうなっているのか」「津波によって事故が起きる可能性が

だ」などの声が出て、賑やかな議論になりました。私は先日の福島訪問を踏まえて、一向に収束に向かわない現実、田んぼなどが簡単には元に戻らない深刻な状況などを指摘して、原発事故というのは他の災害と違った異質のものだ、柏崎刈羽原発についてもいつときも早く廃炉の決断をと迫りました。

吉田所長らは答弁の中で、福島第一原発の事故後の状況については、「(原子炉内部など)ロボットなどを使って検査している段階だ。(構内については)燃料の冷却、電源設備の多様化、汚染水対策などで一定の前進がみられる」とのべました。まだ原因究明には程遠いですね。柏崎刈羽原発については、「重要な電源と見ているが、再稼働時期については具体的に何年の何月というものではない。まずは安全対策をしっかりとやっていくということだ」

注目の柏崎刈羽原発については、「6、7号機について申請している。県民の皆さんに安全対策をしっかりと説明していく」とのべ、再稼働推進の姿勢を崩しませんでした。

参加者からは、「原発について本当に安全だという認識を持っていくのか」「全号機が停止したのはこれで3度目だ。停止のたびに地元の暮らしは右往左往している。これをどう見ているのか」「地盤調査は時間がかかるのではないか。その点、どういう見直しを持っているのか」「政府は福島第一原発はコントロールされていると言っていて、それを撤回しようとしていない。現在、メルトダウンした核燃料はどうなっているのか」「津波によって事故が起きる可能性が

とのべ、再稼働時期については触れませんでした。安全対策をしっかりとやるためには福島事故の原因究明が欠かせませんが、そのことを棚上げして再稼働申請しているというのはおかしい話です。全体として、東電側は反省は言葉だけで、再稼働ありきの発言が目立ちました。



大島夏祭りに参加してきました

綱引き、スイカ割り、みんな元気で、楽しそうでした。私も楽しく交流できました。写真は最強の大平綱引きチーム。

はしづめ法一の活動レポート

No.1668 2014.8.3
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

 橋爪法一 検索

激しい雨が降った後の夕方でした。大島生涯学習センターで行われていた「ほたるコンサート」が終わろうとしていた時間帯、会場である体育館の後ろの方でコンサートを聴きながらメモを取っていた私のところに思わぬお客さんがやってきました。

お客さんというのは、まだ歩き始めてから一年足らずといった感じの男の子です。私の近くでお母さんと一緒に音楽を聴いていたのですが、私が水分補給用に持参していたポカリスエットがこの子の目に入ったんですね、私のところにやってきて、ポカリスエットに手を伸ばしてきました。

もし私が口をつけていなかったならば、すぐにあげたでしょう。飲み始めて、しかも時間が経っていましたので、そうはいきません。ポカリスエットに手を伸ばしてくる仕草がじつにかわいくて、あげたくなる気持ちに負けそうになりましたが、ペットボトルをしつかり握り、ずっと離さないでいたらあきらめてくれました。

ところが、この男の子はポカリスエットの次に私が持っていたカメラにも関心を持ちました。カメラに何度も触りました。おもちゃと同じように受け止め、遊び続けていました。そして最後は、私のあぐらの中にちよこんと座ったのです。

この日のコンサートは午後六時頃から始まりました。実行委員長の江口鎮夫さんが「普天間かおりさんのコンサートは大島で三回目です。パンチのある歌、心に響く歌を堪能してください」と挨拶した後、地元のコラスグループ、コールチロル大島のみなさんによる「シヤボン玉」「夕焼け小焼け」などの合唱がありました。背の高いK子さんや仁上のKさんなどが時どき笑顔を見せながら、楽しそうに歌っていました。いずれの歌にも郷愁があり、子ども時代に引きずり込まれそうでした。

普天間かおりさんが登場すると、ひととき大きな拍手が起きました。正面舞台のバックには照明によって普天間さんの姿などが映し出されましたが、夕日が当たった体育館の窓の格子もまた舞台後方の壁に映りました。偶然なのでしょうが、それが舞台照明とうまくかみ合って素敵シルエットをつくりだしていました。

一曲目の歌を歌い終わって、普天間さんは語り出しました。沖縄出身だから雪は憧れだったこと、所属する会社の社長さんは「大島のメインストリート」の出身で、生家があったところはいま、プールになっていることなどの話に会場はたびたび笑いに包まれました。

ホテルの時期にぴったりの歌もありました。「じんじん」という歌です。沖縄の言葉で「ホテル」を意味するのだそうです。「じんじん」という言葉に合わせて手拍子が起き、照明も「オン」「オフ」を繰り返す。この日一番の盛り上がりとなりました。

コンサートがスタートして五〇分ほど経って、普天間さんが歌ったのは「スマイルアゲイン」。三年四カ月前、東日本大震災のとき、彼女は福島にいました。二分四〇秒の恐怖の体験をした以降、被災した福島の人たちを励まし続けています。「負けないで負けないで 生きることをあきらめないで…」歌詞からも曲からも被災者を思うやさしさが伝わってきました。

私のあぐらのなかに座った男の子は、あぐらのなかが気に入ってくれ、一緒に手拍子もとりました。この時、ふと思ったんです、私も幼かった頃に同じようなことをしたことがあるなど……。小さな虫が私の中に飛び込んできたようなこの気分、最高でした。

センター病院との 情報共有の不十分さ痛感

厚生常任委員会は24日、上越地域医療センター病院を訪問しました。前半は施設見学、後半は病院長などとの懇談会でした。

施設は新しいところと古いところの差が大きかったですね。リハビリ棟では水や音など様々なものを使っているのにびっくりしました。

懇談会では、病院側から「消費税の税率アップで燃料代などが大幅に上がった」「医師確保については慢性的に苦労している」「当病院は慢性期医療、回復期医療を担う病院で、地域医療連携のカナメになっているが、黙っていると、寝たきり病院になってしまう」「病院ができて40年以上になる。リニューアルが一番の課題だ」「10年先を考え、快適な医療環境で医師を迎えたい」などの声が出されました。議員

側からは、病院の体制や経営実態を問う質問などが相次ぎました。

率直に言って、これまで病院側と行政、議会の情報共有が十分できていなかったと感じました。今後の病院のあり方を考えると、もっと現場を知った上で議論しないといけないなと思った次第です。もうひとつ、国の医療政策の転換で病院が翻弄されていることを感じました。病院側とは、今後も懇談会、意見交換会を重ねていくことで合意しました。



上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月23日(水)	7月30日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.043	0.043
頸北消防署	0.043	0.046
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.056	0.053
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.046	0.047

